

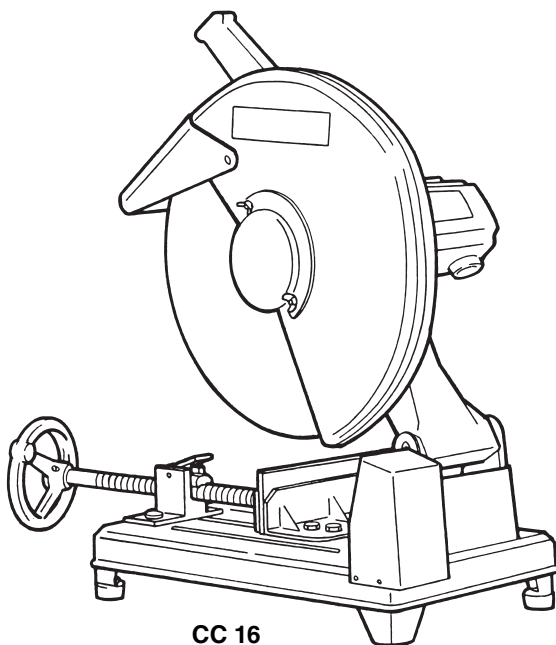
# HiKOKI

## 高速切断機

405 mm **CC 16**

## 取扱説明書

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。  
ご使用前にこの取扱説明書を良くお読みになり、正しく安全にお使いください。  
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



CC 16

本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

# 目 次

	ページ
電動工具の安全上のご注意	2
高速切断機の使用上のご注意	5
各部の名称	8
仕様	9
標準付属品	9
別売部品	9
用途	10
作業前の準備	10
ご使用前に	12
切断する前に	15
切断方法	17
トイシの取付け・取りはずし	19
保守・点検	21
ご修理のときは	裏表紙

---

## **警告**、**注意**、**注** の意味について

**警告** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

**注意** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

**注** : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なお注意。

なお、**注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

# 電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてを良くお読みのうえ、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

## ⚠警告

- ① **作業場は、いつもきれいに保ってください。**  
散らかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② **作業場の周囲状況も考慮してください。**
  - 電動工具は、雨の中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
  - 作業場は十分に明るくしてください。
  - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ **感電に注意してください。**  
電動工具を使用中、体をアース（接地）されている物に接触させないようにしてください。  
(例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠)
- ④ **子供を近づけないでください。**
  - 作業者以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
  - 作業者以外、作業場へ近づけないでください。
  - 安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
- ⑤ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**  
乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。
- ⑥ **無理して使用しないでください。**  
安全に能率良く作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。
- ⑦ **作業に合った電動工具を使用してください。**
  - 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行う作業には使用しないでください。
  - 指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑧ **きちんとした服装で作業してください。**
  - だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
  - 屋外で作業する場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
  - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。

## 警告

- ⑨ **保護メガネを使用してください。**  
作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
- ⑩ **防音保護具を着用してください。**  
騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。
- ⑪ **コードを乱暴に扱わないでください。**
  - コードを持って電動工具を運んだり、コードを引いてコンセントから抜かないでください。
  - コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。
- ⑫ **加工する物をしっかりと固定してください。**  
加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
- ⑬ **無理な姿勢で作業をしないでください。**  
常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
- ⑭ **電動工具は、注意深く手入れをしてください。**
  - 安全に能率良く作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、良く切れる状態を保ってください。
  - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
  - コードを点検し、損傷している場合は、修理をお買い求めの販売店に依頼してください。
  - 延長コードを使用する場合は、事前に点検し、損傷している場合には交換してください。
  - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
- ⑮ **次の場合は、電動工具のスイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。**
  - 使用しない、または、準備・調整・点検・修理する場合。
  - 付属品や別売部品を取付け、交換する場合。
  - その他、危険が予想される場合。
- ⑯ **調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。**  
電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。
- ⑰ **不用意な始動は避けてください。**
  - 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
  - 電源プラグを電源コンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
- ⑱ **屋外使用に合った延長コードを使用してください。**  
屋外で延長コードを使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。

## 警告

### ⑱ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。

- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業の仕方、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

### ⑳ 損傷した部品がないか点検してください。

- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
- 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に依頼してください。
- スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。

### ㉑ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

この取扱説明書および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外の物を使用すると、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。

### ㉒ 電動工具の修理は、専門店で依頼してください。

- この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は、お買い求めの販売店に依頼してください。ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。

# 高速切断機の使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、高速切断機として、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

## 警告

- ① **本機は、銘板に表示してある電圧で使用してください。**  
表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に速くなり、けがの原因になります。  
詳細は、P.12「1. 使用電源を確かめる」を参照してください。
- ② **ホイルカバー、サブカバー、保護カバーは、必ず取付けて使用してください。**  
取付いていないと、トイシが破壊したとき、けがの原因になります。
- ③ **本機は、トイシを使用して金属を切断する工具です。指定以外の用途に使用しないでください。**  
思わぬけがの原因になります。
- ④ **指定以外の刃物（丸のこ刃、チップソーなど）での切断作業はしないでください。**  
丸のことしての保護装置がなく、けがの原因になります。
- ⑤ **使用するトイシは、トイシに表示されている最高使用周速度が機械に明示してある周速度以上の補強入りレジノイド切断トイシを使用してください。**  
正規以外のトイシを使用すると、トイシが破壊し、けがの原因になります。
- ⑥ **トイシの外周面以外は、使用しないでください。加工物の切断、または凹部、溝などを加工するとき、トイシをこじることがないようにしてください。**  
使用中にトイシが破壊し、けがの原因になります。
- ⑦ **トイシにヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。**  
異常があると、トイシが破壊し、けがの原因になります。
- ⑧ **研削粉は火花となって飛散するので、引火しやすい物、傷付きやすい物は安全な場所に遠ざけてください。また、研削火花を直接手足などに当てないようにしてください。**  
火災ややけどの原因になります。
- ⑨ **本機は乾式用ですから、水、研削液などは使用しないでください。**  
水・研削液などを使うと、トイシの破壊によるけがや感電の恐れがあります。
- ⑩ **使用中は、トイシに手や顔などを近づけないでください。**  
けがの原因になります。

## ⚠警告

- ⑪ 作業中は必ず保護メガネをご使用ください。粉じんが出る場合はマスクもつけてください。
- ⑫ トイシを交換する場合は、この取扱説明書の手順に従って確実に行ってください。  
トイシの締付けボルトがゆるんだまま使用すると、トイシがはずれ、けがの原因になります。また、締めすぎも、トイシを傷めることになり、トイシの破壊の原因になります。必ず付属の工具で、正しく締付けてください。
- ⑬ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音、異常振動がしたりするときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。  
そのまま使用していると、けがの原因になります。
- ⑭ 誤って落としたり、衝撃が加わったりしたときは、トイシや機体などに破損や亀裂、変形がないことを点検してください。  
破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。
- ⑮ 必ずアース（接地）してください。  
故障や漏電などのとき、感電の恐れがあります。  
詳細は、P.10「2. アース（接地）、漏電しゃ断器の確認」を参照してください。
- ⑯ 延長コードを使用するときは、アース（接地）線を備えた3心キャブタイヤケーブルを使用してください。  
アース（接地）線のない2心コードですと、感電の原因になります。
- ⑰ 〔事業者の方へ〕トイシの交換・試運転は、法・規則で定める特別教育を受けた人に行わせてください。

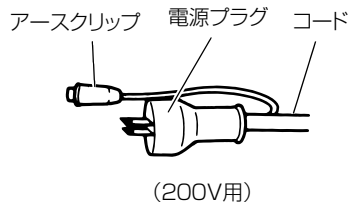
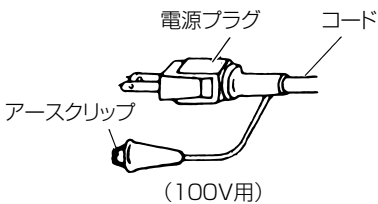
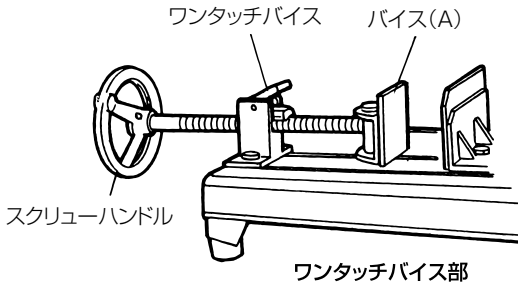
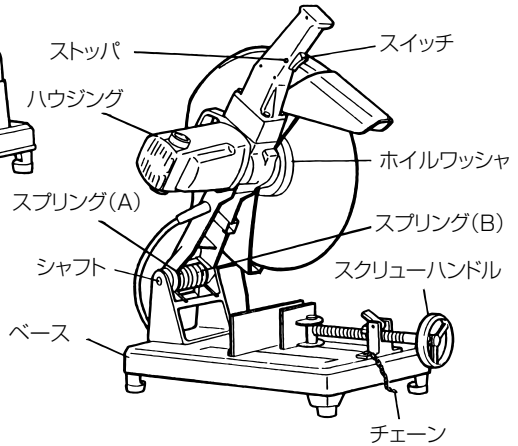
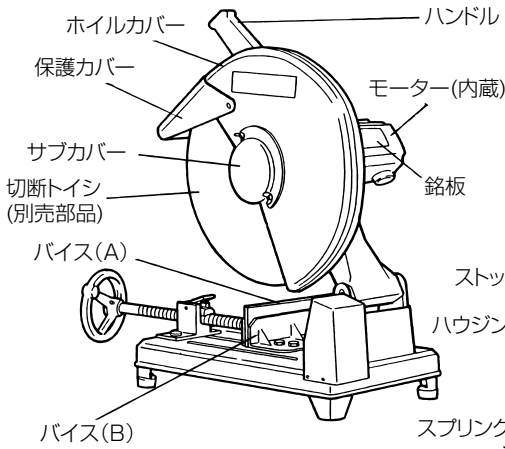
関連法令 労働安全衛生法 第59条  
労働安全衛生規則 第36条  
安全衛生特別教育規程 第2条

## ⚠注意

- ① 傾斜のない平たんな場所にすえ付けて、安定した状態にしてください。  
不安定な状態では、作業中、材料が動いてトイシが破壊し、けがの原因になります。
- ② トイシや付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。  
ゆるんだり、はずれた場合、けがの原因になります。
- ③ 新しいトイシを取付け、はじめてスイッチを入れるときは、トイシの正面位置から必ず一時、体を避けてください。  
トイシが破壊したとき、けがの原因になります。
- ④ 試運転を励行してください。  
試運転時間はトイシ交換のとき：3分間以上  
その日の作業始めのとき：1分間以上 です。  
試運転せずに作業を開始すると、思わぬけがの原因になります。
- ⑤ 高所作業のときは、下に人がいないことを確かめてください。  
またコードを引っ掛けたりしないでください。  
材料や機体などを落としたとき、事故の原因になります。
- ⑥ 騒音から耳を保護するため、耳栓を着用してください。
- ⑦ 材料は、本体付属のバイスで確実に固定してください。  
材料の固定が不十分ですと材料が飛んだり、トイシが破壊してけがの原因になります。
- ⑧ トイシは、水分や湿気のない乾燥した場所に保管してください。  
水分や湿気によって強度が低下し、トイシ破壊の原因になります。
- ⑨ 回転させたまま、放置しないでください。  
けがの原因になります。
- ⑩ 切断する材料の上に手を置いたり、コードを材料の上に載せたまま作業しないでください。  
手を切ったり、コードを切断して、感電につながる恐れがあります。
- ⑪ 切断直後の材料は、高温になっているので触れないでください。  
やけどの原因になります。



# 各部の名称



# 仕 様

形 名		CC 16		
使 用 電 源		単相交流 50/60 Hz 共用 電圧 100 V または 200 V … (共用ではありません。)		
モ ー タ ー		保護形単相直巻整流子モーター		
全 負 荷 電 流		15 A (100 V 品) 7.5 A (200 V 品)		
使用できる刃物		最高使用周速度が 71 m/s {4,300 m/min} 以上の クロス (補強) 入りレジノイド切断トイシ		
使用できるトイシ寸法		外径 405 mm × 厚さ 4 mm 以下 × 穴径 25.4 mm		
トイシ軸回転数		3,100 min <sup>-1</sup> {回 / 分}		
無負荷トイシ周速度		65 m/s {3,940 m/min}		
最 大 切 断 寸 法	直 角	丸パイプ 外径 140 mm	角パイプ 最大幅 215 mm	最大高さ 100 mm
	45°	丸パイプ 外径 100 mm	角パイプ 最大幅 95 mm	最大高さ 100 mm
		アングル 最大幅 135 mm	最大高さ 135 mm	
		丸 棒 外径 65 mm		
		丸パイプ 外径 100 mm	角パイプ 最大幅 95 mm	最大高さ 100 mm
		アングル 最大幅 90 mm	最大高さ 90 mm	
		丸 棒 外径 45 mm		
バイス最大開き		217 mm		
質 量		23.0 kg		
コ ー ド		アースクリップ付 3 心キャブタイヤケーブル 4 m		
そ の 他		雑音防止器付 (100 V 品のみ)		

(200 V 品は生産を打ち切る場合があります。)

## 標準付属品

① 17 mm スパナ…1 個



② 6 mm 棒スパナ…1 本



## 別売部品

…………… (別売部品は生産を打ち切る場合がありますので、ご了承ください。)

切断トイシ

クロス (補強) 入り 外形 405 mm 厚さ 2.8 mm



# 用 途

- 軟鋼パイプ（水道管、鋼管など）の切断
- 軟鋼形鋼（アングル鋼、チャンネル鋼など）の切断
- 軟鋼丸棒の切断

## 作業前の準備

作業前に次の準備をすませてください。

### 1. すえ付け

傾斜のない平坦な場所へ、安定した状態にすえ付けてください。

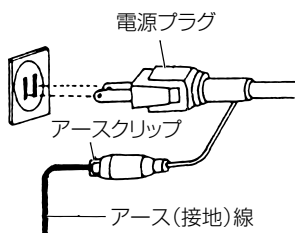
### 2. アース（接地）、漏電しゃ断器の確認

#### ⚠ 警告

- アース（接地）線をガス管に取付けると爆発の恐れがありますので、絶対にしないでください

ご使用にさきだち、本機が接続される電源に労働安全衛生規則や電気設備の技術基準などに規定された感電防止用漏電しゃ断装置（以下、漏電しゃ断器と言います）が設置されていることを確認してください。

本機は必ずアース（接地）をしてください。定格感度電流 15 mA 以下、作動時間 0.1 秒以下の電流動作型の漏電しゃ断器が設置されている電源でお使いになる場合でも、より安全のためアースされるようお勧めします。



アース（接地）するときには、左図のアースクリップをお使いになると便利です。アースクリップ、アース（接地）線は念のために異常のないことを確認してからご使用ください。テスターや絶縁抵抗計などをお持ちでしたら、アースクリップと本機金属外枠との間の導通を確認してください。

地中にアース極（アース板、アース棒）を埋め、アース（接地）線を接続するなどのアース工事は、電気工事士の資格が必要ですので、お近くの電気工事店にご相談ください。

### 3. 延長コード



#### 警告

- 延長コードは、損傷のない物を使用してください。

電源がはなれているときは、電流を流すのに十分な太さの延長コードをできるだけ短くして使用します。

コードの太さ (mm <sup>2</sup> )	最大長さ (m)
1.25	10
2	15
3.5	30

左の表は、コードの太さ（導体公称断面積）によって、機体に使用できるコードの最大長さを示します。

これ以上長いコードを使用すると、電流が十分流れず製品の能率が落ち、故障の原因になります。

延長コードは必ずアース（接地）できるアース（接地）用の 1 心をもつ 3 心キャブタイヤケーブルをお使いください。

上の表は 100 V 品の場合であり、200 V 品の場合には、最大長さはこの 2 倍が限度です。

### 4. チェーンをはずす

工場出荷時にはチェーンで可動部を固定してありますので、ハンドルを少し下に押し、チェーンをハンドルからはずしてください。

### 5. 作業環境の整備・確認

作業する場所が P.2 「電動工具の安全上のご注意」①、②、④に記載されている状態になっているかどうか確認してください。

#### ○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

## ご使用前に

### 警告

- ご使用前に次のことを確認してください。以下の1～7項目については、電源プラグをコンセントにさし込む前に確認してください。

#### 1. 使用電源を確かめる

必ず銘板に表示してある電圧でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転が異常に速くなり、トイシや機体が破損する恐れがあります。また、直流電源、エンジン発電機および昇圧器などのトランス類で使用しないでください。機体の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

#### 2. スイッチが切れていることを確かめる

### 警告

- スイッチが入っているのを知らずに、電源プラグをコンセントにさし込むと不用意に機体が起動し、思わぬ事故の原因になります。

スイッチ(P.8の図参照)は引くと入り、はなすと切れます。一度スイッチを引き、はなしたときスイッチが戻ることを必ず確認してください。

#### 3. トイシを確かめる

### 警告

- トイシにヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。異常があると、トイシが破壊し、けがの原因になります。

トイシは、正規のモノか、またヒビや割れがないか十分確認してから使用してください。

#### 4. トイシの締付けを確かめる

トイシの締付けを念のため確かめてください。詳しくは19ページ「トイシの取付け・取りはずし」を参照してください。

## 5. ホイルカバー、サブカバー、保護カバーの確認

### 警告

- ホイルカバー、サブカバーおよび保護カバーは必ず取付けて使用してください。

トイシが破壊したとき、けがの原因になります。

ホイルカバー、サブカバーおよび保護カバーは、体がトイシに触れる事故を防止する物です。また、トイシが破壊したときのトイシの飛散と研削火花の飛散を防止する物です。従って、ホイルカバー、サブカバーおよび保護カバーを取りはずして使用することは絶対にしないでください。

## 6. トイシの面振れ点検

トイシ軸を付属の 17 mm スパナでトイシ軸の端面から見て時計方向へ回し、トイシの面振れを点検してください。面振れが大きいと正確な切断ができなくなります。また、振動の原因になります。

この場合、速やかにご購入求めの販売店にお問い合わせください。

## 7. トイシは最高使用周速度以上の物を使用する

### 警告

- 使用するトイシは、トイシに表示されている最高使用周速度が機械に明示してある周速度以上の補強入りレジノイド切断トイシを使用してください。

正規以外のトイシを使用しますと、トイシが破壊し、けがの原因になります。

## 8. コンセントの点検

電源プラグをさし込んだとき、コンセントがガタガタだったり、電源プラグがすぐ抜けるようでしたら修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。

## 9. 試運転を行う

### 警告

- 機体のスイッチを入れるときは、機体のトイシが切断材料などに接触していないことを確認してください。  
接触していることを知らずにスイッチを入れると、トイシが破壊することがあり、けがの原因になります。
- 新しいトイシを取付け、はじめてスイッチを入れるときは、トイシ正面位置から必ず一時、体を避けてください。

トイシにヒビ・割れがあるのを気付かずに作業しますとけがの原因になります。

作業前には、トイシ正面位置から必ず一時、体を避けるとともに、他人のいない方向にトイシを向け、必ず試運転を行って異常がないことを確認してください。

試運転時間は

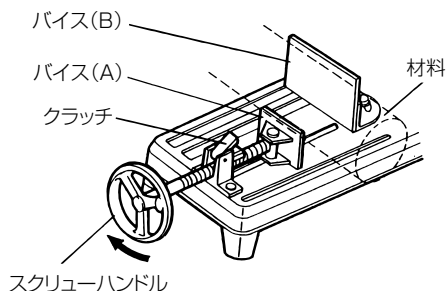
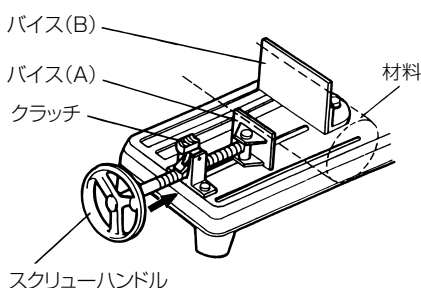
トイシ交換のとき ————— 3 分間以上

その日の作業始めのとき ————— 1 分間以上 　　です。

# 切断する前に

## 1. ワンタッチバイスの使い方

**注** ・クラッチを解除しようとしても解除できない場合は、スクリューハンドルを少し回してください。



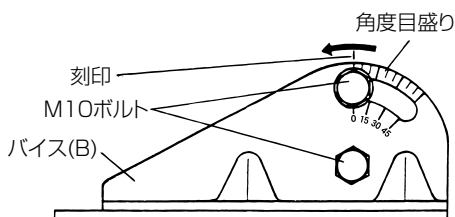
本機のバイス (A) は、クラッチを解除すると早送りでき、セットするとねじ送りができます。早送りとねじ送りを使い分けることにより能率良く作業できます。

- (1) クラッチを解除した状態 (上左図参照) のとき、スクリューハンドルを押し下したり引いたりすればバイス (A) の早送りができます。
- (2) クラッチをセットした状態 (上右図参照) のとき、スクリューハンドルを回せばバイス (A) のねじ送りができます。

## 2. 切断角度の設定

### ⚠ 警告

●切断角度設定後、M10 ボルト (2 本) を確実に締付けてください。  
締付けが不十分ですと切断時に、バイス (B) が動き切断精度が悪くなるばかりでなく、材料が飛んだり、トイシが破壊してけがの原因になります。



この機体は左右 45 度までの角度切断ができます。付属の 17 mm スパナで M10 ボルト (2 本) をゆるめ、角度目盛りを刻印に合わせればバイス (B) の角度が設定できます。

角度の設定後、M10 ボルト (2 本) を確実に締付けてください。

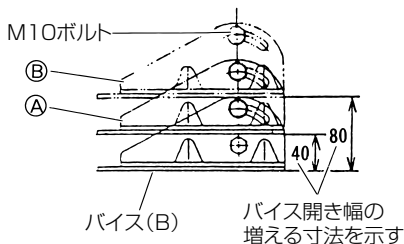


### 3. バイスの開き幅を広げる方法

#### 警告

- バイス (B) 移動後、M10 ボルト (2 本) を確実に締付けてください。  
締付けが不十分ですと、切断時にバイス (B) が動き切断精度が悪くなるばかりでなく、材料が飛んだり、トイシが破壊してけがの原因になります。

**注** • バイスの開き幅を大きくすると角度切断はできません。



M10 ボルトをゆるめ、バイス (B) を後方に移動すると、バイスの開き幅 (バイス (A)、(B) の材料接触面の最大距離) を 2 段階に広げることができます。

左図のように ① 位置にバイス (B) を移動し、固定すると、バイスの最大開き幅は 137 mm が 177 mm になり、② 位置に移動し、固定すると、バイスの最大開き幅は 217 mm になります。

# 切断方法

## 警告

- トイシを回転させたまま材料の取付け、取りはずしをしないでください。材料がトイシに巻き込まれて飛散するなど、けがの原因になります。

## 1. スイッチの操作

スイッチ (P.8 の図参照) は引くと入り、はなすとスイッチが戻り切れます。スイッチを引いてからストップを押すと、スイッチから指をはなしてもスイッチが入ったままになります。

再びスイッチを引くとストップがはずれ、スイッチから指をはなすとスイッチが切れます。

## 2. 材料の固定

## 警告

- 材料は、本体付属のバイスで確実に固定してください。材料の固定が不十分ですと材料が飛んだり、トイシが破壊してけがの原因となります。

材料をバイス (B) 面に確実に突き当て、クラッチを解除した状態でスクリーハンドルを押し、バイス (A) を材料に軽く押し当ててください。

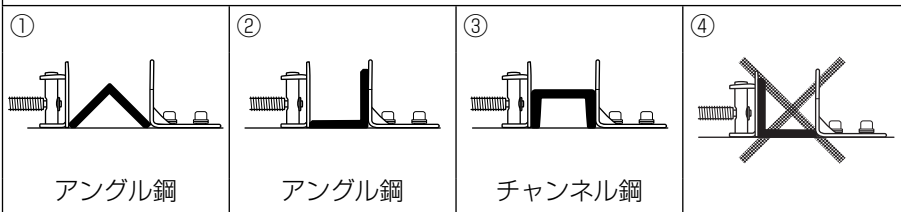
次にクラッチをセットし、スクリーハンドルを回して材料を確実に固定してください。(P.15 「1. ワンタッチバイスの使い方」参照)

### アングル鋼の固定方法

材料がアングル鋼、チャンネル鋼の場合は、必ず①～③図のように固定してください。

アングル鋼を④図のように固定しないでください。

④図の状態固定し、切断すると材料が動き、切断精度が悪くなる場合があります。



### 3. 切断作業

#### 警告

- 作業中は必ず保護メガネを使用してください。粉じんが出る場合は、防じんマスクもつけてください。
- 騒音から耳を保護するため、防音保護具を着用してください。
- トイシに割れが発生した場合は、直ちに使用を中止してください。  
トイシが破壊し、けがの原因になります。
- 切り落とし側が薄い場合は、切断後、トイシが完全に停止してからハンドルを持ち上げてください。  
トイシを回転させたままハンドルを持ち上げると、切り落とした材料がトイシと接触して飛散することがあり、けがの原因になります。  
また、1回の切断または切り込みが終わるごとに、スイッチを切ってトイシの回転が停止したのを確認し、切り落とした材料を取り除いてから、次の段取りをしてください。
- 材料を切断するときは、引火しやすい物、傷付きやすい物は、遠ざけてください。
- 切り落とした材料・切りくずは高温になるので、素手でさわらないでください。
- 切削油などをつけて切断しないでください。  
切削油・切削液およびワックスなどの種類によっては、切断時の火花で発火する場合があります。
- 万一の事故を防止するため、作業後は必ずスイッチを切り、主電源を切っておいてください。

#### 注意

- ハンドルを急激に押し下げてトイシを材料に強く当てないでください。  
トイシのヒビ、割れの原因になります。
- 万一、切断中にトイシが停止した場合は、直ちにスイッチを切り材料からトイシをはずしてください。  
その後、無負荷運転を行い、異常のないことを確認してください。

- 注**
- 切り込むとき、ハンドルに力を入れすぎても早く切れません。力を入れすぎるとモーターに無理をかけ効率も悪くなります。  
一番火花が出る状態で切断すると効率が上がります。
  - 切断時間が1分以上かかる場合は、途中で切り込みを止め10～20秒無負荷で運転してモーターを冷却しながら作業してください。
- (1) スwitchを入れトイシの回転が完全に上がって安定してから、ハンドルを静かに下げて材料に近づけます。
  - (2) トイシが材料に接触したら、ハンドルを徐々に押し下げて切り込みます。火花が一番出る状態を目安に切り込んでください。
  - (3) 切断が終わった所でスイッチを切り、トイシの回転が完全に停止してからハンドルを持ち上げ、元の位置に戻してください。

# トイシの取付け・取りはずし

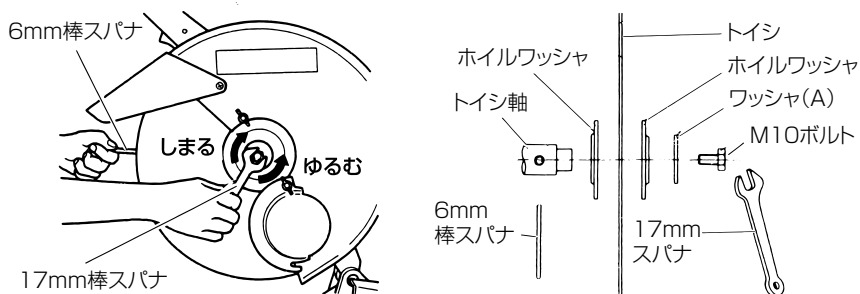
## ⚠警告

- 万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、電源プラグを電源から抜いておいてください。
- トイシ取付けボルトがゆるまないよう確実に締付けてください。  
なお、電源プラグを電源にさし込む前にボルトが確実に締付けられていることを確認してください。
- 連続して切断した後、トイシを取りはずす場合、トイシが熱くなっていることがありますので注意してください。

## ⚠注意

- トイシにヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。

## 1. トイシの取付け方

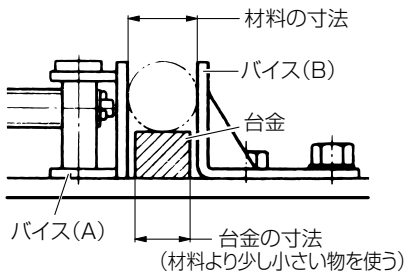


- (1) 6 mm 棒スパナをトイシ軸の穴にさし込み、トイシ軸を固定します。(上右図、上左図参照) この状態で 17 mm スパナを M10 ボルトにかけ、上左図のゆるむ方向(左回転)に回せば、M10 ボルトがゆるみます。
- (2) M10 ボルト、ワッシャ(A)、オイルワッシャ(1枚)を取りはずします。(上右図参照)
- (3) トイシを取付けます。
- (4) オイルワッシャ、ワッシャ(A)、M10 ボルトに付いている研削粉、ごみなどを除去し、トイシ軸にトイシを取付けます。
- (5) 6 mm 棒スパナをトイシ軸の穴にさし込み、M10 ボルトにスパナをかけて上左図の締まる方向(右回転)に回せば、M10 ボルトが締まります。

## 2. トイシの取りはずし方

「1. トイシの取付け方」(1)、(2)の後、トイシを取りはずします。

### 3. 台金の使い方



トイシの外径が小さくなった場合は、左図のように、材料の寸法より少し小さめの台金をバイス(A)と(B)の間に入れて使用しますと、経済的にトイシを使うことができます。

# 保守・点検

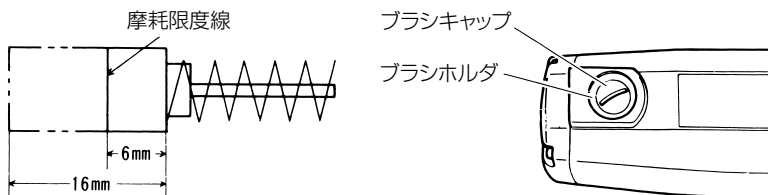
## ⚠ 警告

•点検・手入れの際は、必ずスイッチを切り、電源プラグを電源から抜いておいてください。

### 1. トイシの交換

トイシが小さくなり、切れ味が悪くなった物を使用するとモーターに無理をかけることになり、また能率も落ちますから早めに新品と交換してください。

### 2. カーボンブラシの交換



モーター部 (P.8 の図参照) には、消耗品であるカーボンブラシを使用しております。カーボンブラシの摩耗が大きくなると、モーターが故障する原因になります。長さが摩耗限度 (6 mm ぐらい) になりましたら新品と交換してください。

また、カーボンブラシは、ごみなどを取り除いてきれいにし、ブラシホルダ内で自由に滑るようにしてください。(上図参照)

**注** •新品と交換の際は、必ず弊社指定のカーボンブラシを使用してください。

#### 交換方法

カーボンブラシは、マイナスドライバーなどでブラシキャップ (上右図参照) をはずすと、取り出せます

### 3. モーターの取扱いについて

モーター（内蔵）(P.8の図参照)に、油や水が浸入しないよう十分に注意してください。

- 注** •50時間ぐらい使用しましたら、モーターを無負荷運転させて、湿気の少ない空気をハウジング後部の風穴から吹き込んでください。  
ごみやほこりの排出に効果があります。  
モーター内部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。

### 4. 機体の点検

各部部品の取付けに、ガタつきやゆるみがないか定期的に点検してください。ゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。異常がある場合は、お買い上げの販売店に相談してください。

### 5. 注油

機体を長持ちさせるため、月一度の割で注油点に注油してください。  
(P.8の図参照)(油はマシン油が適当です。)

#### 注油点

- ヒンジの回転部
- バイス(A)のスライド部
- バイスのスクリュウ部
- スプリング

### 6. 清掃

ときどき機体に付いている切削粉や、ごみを布などでふき取ってください。モーター部(P.8の図参照)は水や油でぬらさないようにしてください。

### 7. 機体や付属品の保管

下記のような場所は避け、温度が50℃未満で乾燥した安全な場所に保管してください。

- お子様の手が届く場所、持ち出せる場所
- 軒先など雨が掛かる場所、湿気のある場所
- 温度が急変する場所、直射日光の当たる場所
- 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所

# ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。  
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認のうえ、お近くの営業拠点へ  
お問い合わせください。

## お客様メモ


お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておく、修理  
を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

## 全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日を除く 9:00～17:00

●フリーダイヤル

 **0120-20-8822**

※携帯電話からはご利用になれません。  
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待たせする場合があります。  
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部 TEL (03) 5783-0626	●北陸支店 TEL (076) 263-4311
●北海道支店 TEL (011) 786-5122	●関西支店 TEL (0798) 37-2665
●東北支店 TEL (022) 288-8676	●中国支店 TEL (082) 504-8282
●関東支店 TEL (03) 6738-0872	●四国支店 TEL (087) 863-6761
●中部支店 TEL (052) 533-0231	●九州支店 TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、  
下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点  
をご確認いただけます。

<https://www.hikoki-powertools.jp/relation/sales.html>

WEBに  
アクセス

バーコードリーダー機能付きの  
携帯端末より読み取ることで、  
最新の全国営業拠点をご確認い  
ただけます。



# 工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)  
営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <https://www.hikoki-powertools.jp>